

# 標高 2200m のロマンを目指して

## 日本ロゲインチャレンジ 6 時間

木村佳司

「カランカラン」のどかな音を立ててランナーたちが通り過ぎる。クマ避けの鈴だ。ここは長野県と群馬県の県境に位置する菅平高原。広大なエリアを使用して制限時間 6 時間のロゲイン大会が初めて日本で開催された。

日本ロゲインチャレンジ  
2003 年 5 月 11 日



### 日本初！6 時間ロゲイン

菅平高原に拠点を置くチーム白樺がまたまたやってくれた。日本初の 6 時間ロゲイン大会の開催である。菅平高原全域の広大なエリアに散りばめられたコントロールは制限の 6 時間で全て回りきれないように設置されている。そして今年からはソロ参加ではなく、チーム参加を基本としている。

いよいよ本場のロゲイン大会にまた一歩近づいた。参加者は各コントロールに割振られた得点と、そこに行くまでの距離、チームメンバーの体力、知力を総動員して、プランナーとの戦いを楽しんだ。

#### 【クラス別優勝者】

6 時間混合	富田吉郎	ぼんぼこ
6 時間女性	加納尚子	朱雀 OK
6 時間男性	柳下 大	Forester
6 時間男性	藤原三郎	(50 歳以上)
3 時間男性	大北洋平	ぞんびーず
3 時間女性	須藤ともえ	

参加者は、オリエンティアの他にもアドベンチャーレーサー、山岳愛好家など多くのジャンルから参加があった。今回はオリエンティングの要素が強く、上位をオリエンティアが占める結果となった。チームの部で優勝したのは「走るぼんぼこりん」ペア。オリエンティング競技者の富田吉郎・三好暢子夫婦だった。



賞品のワインをゲットして  
ご満悦の富田夫妻

### 優勝チームインタビュー

富田吉郎・三好暢子チーム

**Q.** 今日優勝は何でしたか

吉郎：今日の勝因は・・・いいコンビネーションですね。

暢子：そうですね。

**Q.** 作戦は何かありましたか？

吉郎：作戦は・・・私は根子岳に行きたかったんですけど、コイツが根子岳止めようって・・・

暢子：根子岳行ったら絶対勝てないから、根子岳は捨てましょうって・・・

吉郎：・・・そう、それが勝因ですよ。

暢子：ダンナはこういう地図読みは得意だから任せてました。あとはついてゆくだけ。最初の方針は決めるんだけどね。

暢子：体力的にはなんとかありましたね。

**Q.** ペースが違うんじゃないですか？

吉郎：暢子は登りは強くて、最近わたしが体力落ちているので、ペースが同じくらいなんです。ははは。

### 参加者の感想

壮大なスケールの中で行われるロゲイン大会。参加者も多いに楽しんだようだ。

今年は 6 時間だったが、もっと長い時間までやって欲しいという声も多かった。

これ以上長い時間の競技部門を設立するとすると運営側の負担も大きくなっていく。参加者の装備に対する注文もより厳しくなるだろう。たとえば携帯電話が実際に通話できるかどうかチェックされるだろうし、充電時間も確認される。ヘッドランプの携帯まで義務化されるかもしれない。

次のロゲイン大会では 12 時間部門を設置するという噂もあるが、本当に現実的なのだろうか？ スタート時刻は午前 3 時といった設定を行う必要もでてくるだろう。



スタート前 10 分間のプランニング。  
このプランが勝負を分ける。

### O-map は偉大だ

今回のロゲインの地図は国土院の 1:25,000 の地図を基に行われた。もちろん森林の通行可能性は入っていない。しかし今回は主催者から支給された地図の外に、O-map などの他の地図を持つことが許された。ここ菅平高原

には過去に何度か 0-map が作成されている。

今回の参加者の中でオリエンテーリング経験者がみな口を揃えて言う。「0-map は偉大だ。ひとたび森に入った時に得られる情報量が 0-map と国土地理院の地図とはケタ違い。」と。

0-map を持参したにも関わらず、ヤブを通過する間に何人かの参加者が 0-map を落としている。こうした参加者は 0-map を落としてからナビゲーション情報が極端に不足し、ヤブをもがくハメになったという。



チームで励ましあって完走を目指す。これがチーム競技の醍醐味だ。

また 0-map に記載されている範囲を走っている間は、ある程度現地を予想できる走りが出来たけど、0-map の範囲外に出た途端、国土地理院の地図だけを頼りに走ったら、道がほとんど消えていたり、やぶの中を横切ったり、予想外の体力を消耗して散々な目に遭ったという参加者もいる。やはり、1:25,000 の地図からでは得られない情報に翻弄されたようである。「宝捜しの」になってしまったところも多少あるようだ。



根子岳を全力で駆けまわった・・・満足と疲労で芝生にばったり



男子 6 時間ソロ優勝の柳下。軽快な足取りで根子岳山頂を目指す。

## 超読図術？ ロゲイニングに必要な地図は？

ロゲイニング競技で 0-map が必要なほどの細かいナビゲーションをさせるのが良いのかどうかは意見の分かれるところだ。



バナナ大好き？の西洋人チーム  
スタート前のプランニング中

ロゲイニングは体力とプランを争う競技なので、コントロールは国土地理院の地図でも十分にナビゲーションできるような大きな地形や道を中心にコントロールを設置して、細かなナビゲーションはさせないほうが良いという意見だ。与えられた情報だけでちゃんと辿りつける位置にコントロールを設置して、それ以外のルートに参加者が選ぶ場合はその場のリスク判断に任せ

るというものである。

0-map を使用した細かなナビゲーションはオリエンテーリング競技に通じている方が圧倒的に有利に働いてしまって、他の競技部門から参戦してくる参加者の障害になるという意見もある。「まるでカンニングペーパーを持っている気分」という感想を持つ参加者もいる。

もしもロゲイニングでの 0-map 利用が禁じられたら、古いオリエンテーリング愛好家が実は有利かも知れない。オリエンテーリングが行政地図をほとんどそのまま利用していた時代の、あの「ポストの匂い」という超読図術が長い眠りから覚めてその能力を発揮するのだ。



ポストの匂いってどんな匂い？  
やっぱり化繊の匂いかな？

今回の優勝者はほとんどオリエンテーリング競技者で占めてしまったが、0-map なしのロゲイニング大会だったらもう少しアドベンチャー系の選手が上位に食いこむことができただろうか。

ロゲイニングが、オリエンテーリングなのか、そうではないのか？ 参加者・主催者双方に迷い・とまどいがまだ見かけられるが、これは参加者と主催者との声で徐々に作り上げていくものだろう。

## 運営者の悩み

### / コース設定と得点設定

ロゲイニング大会のコントロール位置の設定とその点数設定は最も頭を悩ませるところである。まず 6 時間で全部回ってしまえるようなコース設定ではな

らない。このため広大な範囲にコントロールを設定することになる。

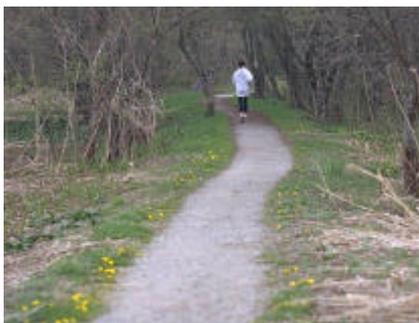
そして参加者の動きに偏りが出ないように場所と点数を決める。ここでうまく設定できないと、参加者が一人も行かないコントロールが出てしまう。今回設置したコントロールには誰かが必ず通過したようだ。



コントロールに到着。思わずこぼれる笑顔。だってコントロール同士が遠いもの。

今回は標高 2200m を越える根子岳山頂にもコントロールが設置してあり、その山腹にもコントロールが設置された。今年は例年より残雪が多く、これらをコースとして走らせても危険がないのかどうかの判断がなかなか付かず、結局直前に 2 箇所予定されたコントロールを削除されたコースとなっている。2 週間前の準備段階では、根子岳山腹の川は雪解け水で轟々たる水量があり、コース設定そのものにも影響を与えたようだ。

通常のオリエンテーリングと違って、何度も試走してコースを決めるわけには行かないので、ここが難しい部分だったと主催者の Team 白樺の高島氏は振りかえっている。



まだ春浅い高原の湿原を走る  
ただ風と自分の足音だけが聞こえる。

## 自然環境との調和を

今回のコントロールは標高 2200m の根子岳山頂付近にも設置されていた。

根子岳といえば「花の百名山」とも言われ多くの高山植物を見ることができ美しい山である。山頂近くには高山植物を保護するための区域もある。コントロールの位置もこうした保護域は避けて設置しなくてはならない。



こちらは殆ど登山な参加者  
ポールを使って 4 つ足歩行。

## ロマンか、地道な得点か

実はこのロゲイニング大会の地図には甘いワナが仕掛けられている。

まず地図を広げ、コースを考え始めると、根子岳山頂をめぐるルートが目に入る。日本花の百名山にも数えられる根子岳を走るコース取りはロマンをそそられる。しかも根子岳山頂には高得点のコントロールが待っている。・・・しかし、よく地図を見ると、根子岳山頂に行くルートを選択するより、菅平高原の低山を細かく巡ったほうが高得点が得られる事が判る。標高 2200m のロマンか、地道な低山か。あなたならどちらを選択するだろうか？

## 本来はチーム競技

今回のロゲイニング大会はソロの参加者もあったが、ロゲイニングは本来チーム競技である。これが従来のオリエンテーリングと決定的に違うところだ。

体力の違いによって装備を配分したり、得意な分野でそれぞれが能力を発揮するのが、チーム競技の醍醐味でも

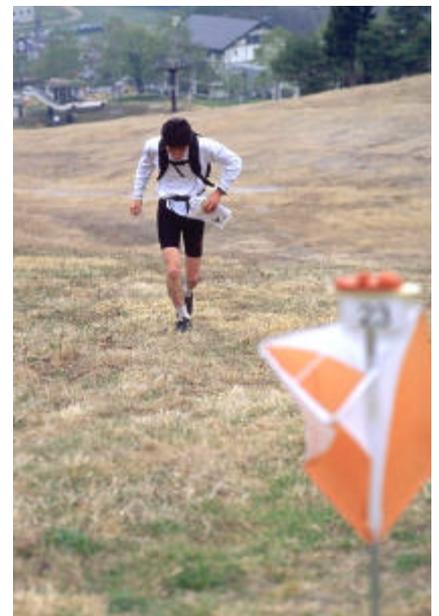
ある。体力の限界に近いところでのチーム競技であるため、オリエンテーリングのグループ競技とは意味合いがかなり違うものである。

ロゲイニング・・・それはオリエンテーリングと似て異なる競技。山が大好きなオリエンテーリング愛好家ならその楽しさを充分に楽しめる競技である。

(木村佳司)



ロゲイニングはグループオリエンテーリングのロング版とも言える。そう考えると初心者向けのグループOの考え方も変わってくるだろう。



目指すコントロールはもうすぐだ